

教育相談課の研究発表

〔 研究 主 題 〕

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究 ～「学校楽しいーと」等を活用した児童生徒への対応～

1 研究主題と基本的な考え方

平成25年度の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）によると、本県公立学校の不登校児童生徒数は小学校234人、中学校1,311人、高校720人であり、ここ数年同水準で推移している。また、平成25年度「かごしま教育ホットライン」の不登校の相談件数は516件（25.1%）と全体に占める割合が最も高く、不登校対応は本県にとって喫緊の課題である。

国立教育政策研究所生徒指導研究センターによると、不登校対応では、「新たな不登校を生まない」予防開発的なアプローチによる支援が重要であると指摘している。

平成23・24年度の本課の「自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する研究～『学校楽しいーと』を活用した効果的な働き掛けを通して～」では、生徒指導上の諸問題の未然防止を図るために、集団や個人に対し、どのように課題等を発見し、どのように働き掛けたらよいかなど、生徒指導の在り方についてまとめ、一人一人の児童生徒の自己変容、自己成長を促すためには、個々に応じた働き掛けが必要であり、児童生徒理解が不可欠であることを再認識した。

本研究では、当教育センターにおいて開発した児童生徒の学校における適応感を測る質問紙「学校楽しいーと」等を活用した不登校の未然防止の取組と効果的な初期対応の在り方について明らかにすることをねらいとして本主題を設定した。

2 実態調査から見られる傾向

【調査目的】	児童生徒を対象として、学校生活における満足感や学校への回避感情など、学校生活に関する実態を把握するとともに、教員を対象に不登校対応に関する課題や効果的な取組についてその実態を把握し、調査研究に係る基礎データとすることを目的とする。
【調査内容】	ア 教員用調査：「不登校対応に関する調査」26問 - 不登校対応の課題、初期対応、不登校予防に効果的な取組、長期化している不登校児童生徒への対応 イ 児童生徒用調査：「学校生活に関する調査」11問 - 学校の満足度、学校の満足感の理由、自己有用感、学級への所属感、休み時間の過ごし方、学校回避感情、学校回避行動、休まないための対応、自己肯定感、相談相手
【調査対象】	ア 教員を対象：（小中高の合計53校，1,309人の回答） イ 児童生徒を対象：（小中高の合計94校，8,587人の回答）
【調査期間】	平成25年8月から10月まで

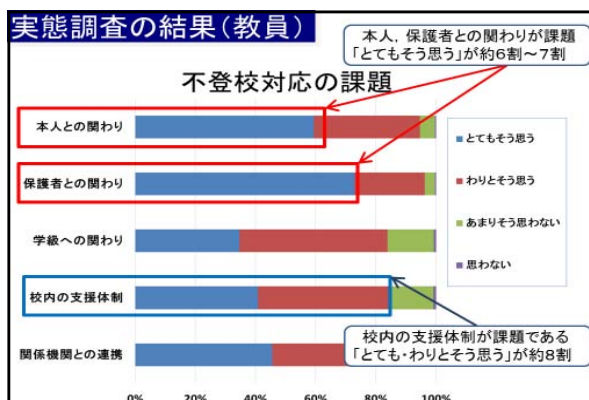


図1 不登校対応の課題（教員）

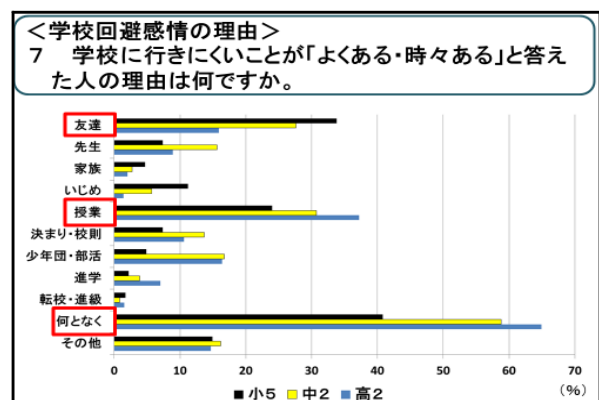


図2 学校回避感情の理由（児童生徒）

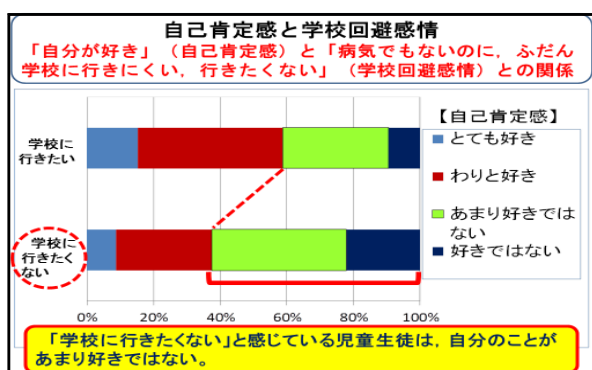


図3 自己肯定感と学校回避感情のクロス集計

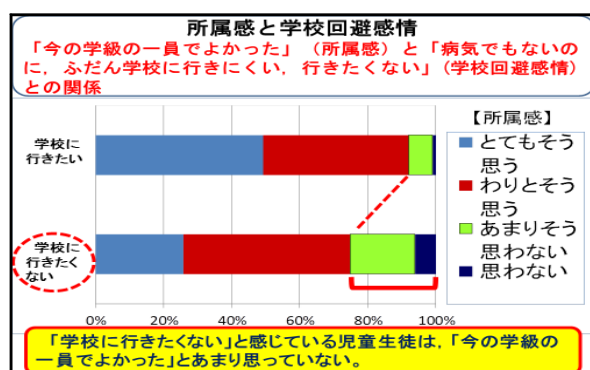


図4 所属感と学校回避感情のクロス集計

- 教員は、不登校対応の課題は、特に「本人との関わり」、「保護者との関わり」、「校内の支援体制の在り方」と捉えている。
- 児童生徒は、学校に行きたくない理由として、「何となく」が各校種、最も多い理由として挙げられている。いじめや友達といった具体的な理由としてではなく、「何となく行きたくない」という学校へのネガティブな感情があることがうかがえる。次いで、「授業」と「友達」が挙げられている。「友達」は、学校満足感の高い理由としても挙げられているため、「学校が楽しいのは、友達がいるからである」一方、一度、その関係がうまくいかないと「学校にも行きたくない」という理由の一つに変化することが考えられる。
- 学校回避感情と「自己肯定感」との関係をクロス集計したところ、「自分のことはあまり好きではない」という自己肯定感が低い児童生徒は、「学校に行きにくい、行きたくない」という学校回避感情が高い傾向にあった。そのことは、「所属感」との関係においても同様で、「学級の一員でよかったとあまり思わない」という所属感が低い児童生徒は、「学校に行きにくい、行きたくない」と捉える児童生徒が多いことが分かった。

3 不登校の未然防止モデル

(1) 児童生徒理解に基づく不登校対応（基礎情報の収集と分類）



図5 分類とスクリーニングモデル

表1 群の区分とその基準	
区 分	前年度における出席等の状況（基準）
一 次 サポート群	全ての児童生徒を対象とする。
二 次 サポート群	① 欠席日数が10日以上ある。 ② 別室登校の経験がある。 ※ 4月、9月に3日以上欠席があった場合、年度途中でも10日以上欠席があった場合「二次サポート群」として対応する。

児童生徒の基礎情報（前年度欠席が10日以上の有無又は別室登校経験の有無の情報）を収集し、「二次サポート群」と分類し、チーム対応の準備を行っておくことが必要である。

(2) 「集団用『学校楽しいーと』分析シート」の活用

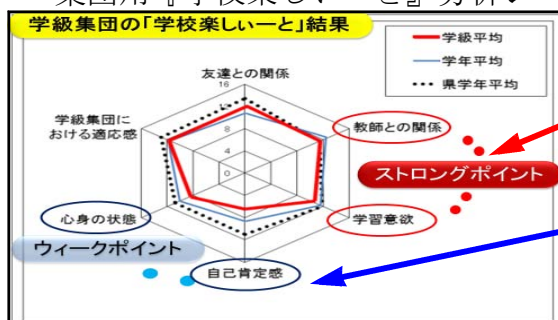


図6 学級集団の「学校楽しいーと」結果

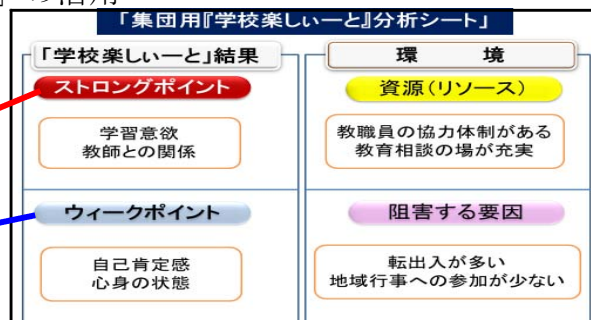


図7 集団用「学校楽しいーと」分析シート

「学校楽しいーと」の結果を踏まえた「集団用『学校楽しいーと』分析シート」を活用することで、実態に基づく、客観的、具体的な指導・援助方針を立案しやすくなり、より見通しをもった実践的な指導が行われやすくなる。

(3) 所属感を高める働き掛け

実態調査の結果より、「所属感」と「自己肯定感」の相関は高い。また、「所属感」を高める働き掛けは、教育活動の場で多く設定しやすいという利点がある。

そのため、「自己肯定感」を高めていくために、「所属感」を高める働き掛けに力点を置くことで、実践化を図りやすくなる。

よって日頃の教育活動の中で、「所属感を高める働き掛けの視点」(表2)を踏まえ、意図的、計画的に児童生徒を指導していくことが重要である。

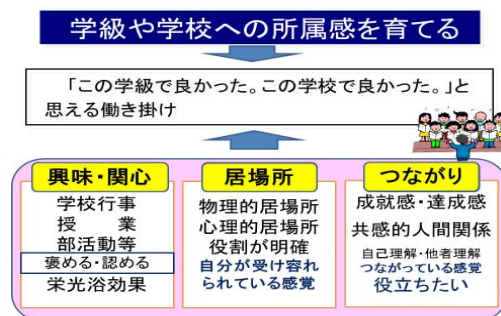


図8 所属感を高める働き掛け

表2 所属感を高める働き掛けの視点

○ 児童生徒が、学級、学校の中に「興味・関心」をもつ
○ 児童生徒が、学級、学校の中に「居場所」を得る
○ 児童生徒が、学級、学校と「つながり」を感じる

4 不登校の初期対応モデル

(1) 基礎情報の分類に応じた初期対応の在り方

「初期対応」とは、「不登校の早期発見・早期対応」の考え方にに基づき、休み始めた時期に電話や家庭訪問を行うなどの働き掛けをする対応である。学校を休み始めた時期は、児童生徒にとって不安・焦燥、疲労を感じやすい状態にある。したがって、電話相談や家庭訪問、教育相談を実施する際は、児童生徒の身体症状や訴えを受け止めて学校を休んだ理由を把握し、適切な対応を考えていくことが大切である。

初期対応による取組では、担任のみで対応に終始するのではなく、早期にチームで対応する体制を整えていき、欠席が続くことを防ぎ、不登校に陥らないようにすることが重要である。

図10に示したように、教員間で、基礎情報の分類に応じた初期対応の流れをあらかじめ決めておくことで、共通理解がなされ、時期を逃さず、具体的な対応が可能となる。

(2) 保護者との連携

実態調査の結果より、教員は、不登校対応の課題を「保護者との関わり」としている一方で、不登校を解決するためには、「保護者との関わり」が効果的であることを指摘している。

児童生徒によっては、学校生活で見せる様子と家庭での様子が大きく違うこともあり、家庭での様子をもっとも理解している保護者との連携の在り方が重要となる。

その際は、欠席が続いてしまっからの「保護者との連携」ではなく、児童生徒が休み始めた時期に適切な連携していくことが大切となる。

保護者との連携では、前年度にほとんど欠席しなかった児童生徒をもつ保護者と、前年度、不登校傾向であった児童生徒をもつ保護者とは、学校側の対応の受け取りに異なる部分が予想される。そのため、「一次サポート群」と「二次サポート群」に分けて、初期対応の際の「保護者との連携」の留意点や言葉掛け等を整理していくことが重要である(図11)。

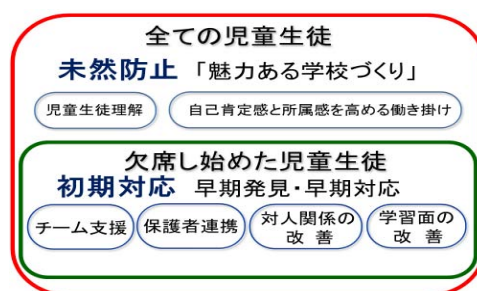


図9 予防開発的な不登校対応モデル



図10 分類に応じた初期対応

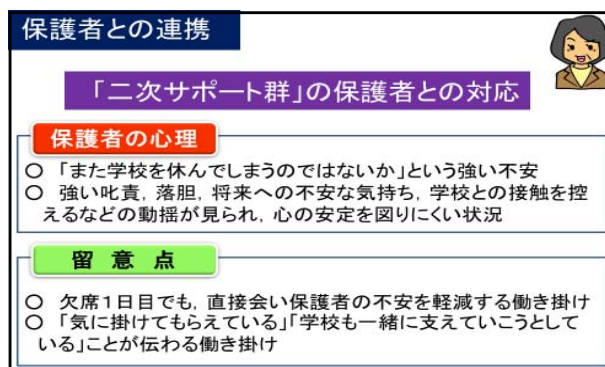


図11 「二次サポート群」の保護者との対応

(3) チーム支援

児童生徒の初期対応で最も大切なことは、担任任せにしないことや担任の個人的力量、努力に依存するだけの対応に終わらせないことである。担任のみで対応した場合、一年ごとに対応が途切れてしまったり、主観的な児童生徒理解に陥りがちになったりなど、不登校の状況が改善されないまま時間だけが過ぎてしまうというケースも予想される。

そのため、担任のみで不登校の初期対応を進めるのではなく、チームの構成員のそれぞれによる気づきや情報共有が行われるなどチームによる支援体制を構築する必要がある。

ア 対応チームの発足

児童生徒の状況によって、チーム全員の話し合いによる見立て、指導・援助方針の立案、役割分担等を検討する対応チームを速やかに発足する必要がある。

対応チームの構成員は、学級担任、副担任、教育相談担当、学年主任、養護教諭、生徒指導主任、教務主任、管理職など関係する教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が考えられる。

チームの構成員は、支援する児童生徒の状況や抱える内容によって、柔軟に対応することが重要である。

イ アセスメント及び指導・援助方針の決定
チームの構成員は、まずは、チームによる支援をどのように行うかを検討する。その際には、チーム支援シート（図12）を作成することを通して、支援する児童生徒のアセスメントを行い、指導・援助方針を決定するとよい。

チーム支援シートは、担任が「基本情報」について書き込み、それを基に、チーム全員で情報を共有しつつ、各観点に従って作成していく。

「資源」の欄は、構成員の情報を参考に児童生徒の課題を解決するための「よさ」となるものを探し、記入していく。具体的には、児童生徒の「興味・関心」、「長所」、「今、できていること」などについて話し合いながら記入していく。

「見立て」（アセスメント）は、学校を欠席する要因を多面的、多角的に分析し、児童生徒の状態像について具体的に記入する。

「指導・援助方針」は、「見立て」に基づいた継続的に関わる基本的な方針を書く。あわせて、誰が、何を、いつ（機会）に行うかも明記し、チーム全員で共通理解を図りながら関わっていくようにする。

このチーム支援シートを活用することで、児童生徒が欠席し始めた時期に、迅速に、具体的にどのように対応すればよいのかが分かり、チームとしての共通理解や共通実践が行いやすくなる。



基本情報

資源

見立て

指導・援助方針

チーム支援シート

氏名 大原台講堂 小中高 2年 1組 部活等 (卓球部)		チームメンバー 欠席1～9日 (担任・副担任・学年主任)		拡大チーム 欠席10日以上 (養護教諭・生徒指導主任...)	
欠席(遅刻)状況 3日(4日)		10月7日 現在			
健康面	対人関係	学習面	自己肯定感	しじめ	ネット関係 保護者連携
夜泣き	話せる友達	できた	仕事成立つ	暴力	使用時間 家庭会話
健康	遊べる友達	話を聞く	やり過ぎる	悪口・悪意	1h未満 会話無し
健康	ホシネ	進んで	自分のよさ	いじめ状況	1～2h 会話少
気分不良	助ける友達	学習の仕方	他人からの	無し	依存状況 家庭内様子
持病	明るい	学習の理解	発達障害傾向	対応中 解決済み	関係なし オンライン SNS等 その他 不明
睡眠	楽しい	◎ ○ △	ない	あるかもしれない	不明
食欲	学級一員	宿題提出	遅刻あり		
服装・身姿	居心地	毎日・時々・無			

興味関心	長所	出来ている事	対人関係	キーパーソン	他の情報

--

指導・援助方針	誰が	何を	機会

図12 チーム支援シート

5 研究の成果と課題

〔成果〕

不登校の未然防止、初期対応の効果的な取組となる不登校未然防止モデル及び初期対応モデルを作成することができた。

〔課題〕

長期に係る不登校対応モデルを作成するために、更なる事例収集と分析、検討が今後必要である。

→ 小学校時には、少年団に所属

表 生徒Aについてのチーム支援シート(例)

基 本 情 報	1 氏名(大原白一郎) 小中高 / 年3組 部活等(サッカー部)		2 チームメンバー: 欠席1~9日 (担任、副担任、学年主任)		3 拡大チーム: 欠席10日以上 (養教、生徒指導主任、SC教頭)	
	4 欠席(遅刻)状況: 3日(3日): / 0月/0日 現在					
	5 健康面 (心身状態)	6 対人関係 (友人関係・ 集団適応感)	7 学習面 (学習意欲)	8 自己肯定感	9 いじめ	10 ネット 関係 (ゲーム)
	11 保護者 との連携 親権者:					
情 報	落ち込み 3	話せる友 3	できた 3	仕事役立つ 3	暴力 2	使用時間
	腹痛 2	遊べる友 3	話を聞く 3	やり遂げる 3	悪口無視 3	◆ 1h未満
	頭痛 2	本音 2	進んで 3	自分のよさ 2	いじめ状況	◆ 1~2h
	気分不良 2	助ける友 2	学習の仕方 3	他人からの 2	◆ 無し	◆ 3h以上
報	持病 無	明るい 3	学習の理解	発達障害傾向	◆ 対応中	依存状況
	睡眠 △	楽しい 2	◎ ○ △	◆ ない	◆ 解決済	◆ 関係なし
	食欲 △	学級一員 3	宿題提出状況	◆ あるかもしれ ない	◆ 調査中	◆ オンライン ゲーム
	緊張具合 ○	居心地 2	毎日・時々・ 無	◆ 診断あり ()	◆ 不明 ()	◆ SNS等 ◆ その他 ◆ 不明

「生活記録」に「眠れない」との記述あり。

最近、未提出のものあり。

小学校時は、欠席なし。

母親が最近「だるい」とよく口にしている。

資 源	12 興味・関心	長 所	できている事	対人関係	キーパーソン	他の情報
	・体を動かす ことが好き。 ・好きなサッカー 選手の話を聞く。	人に優しく 多量に話しかけ たい。	部活動には 参加し、その友達 とは話ができて いる。	最近までB男 C男と行動を 共にしていた。	母、C男、 D男(サッカー部 キャプテン)	保健室へ「お腹 痛い」と来室あり。

見 立 て	13	友人B男からの嫌がらせ(あだ名で呼ばれる、肩を叩かれる)を受けていることを 要因とし、気分不良、食欲減退などの症状も出て、「学校へ行くことへの不安」のため いじめがあるのではないかと。
-------------	----	--

14	指導・援助方針	誰 が	何 を	機 会
①	不安や苦しい気持ちを共感的に受け止める関わり	担任 (部活動顧問)	Aに対して 「事実、心情願 いの受け止め 理解する働き掛け	Aとの教育相談
②	AとBとの関係改善のための関わり(人間関係づくり)	副担任 (養護教諭)	Bに対して 「事実、心情願 いの受け止め、 関係改善の為に話	Bとの教育相談 学級活動

【平成26年度調査研究発表会】

教育相談課 研究発表

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究
～「学校楽しいーと」等を活用した児童生徒への対応～

鹿児島県総合教育センター

1

発表内容

I 研究主題と基本的な考え方

II 実態調査から見られる傾向

III 不登校の対応モデル

- ① 未然防止モデル
- ② 初期対応モデル

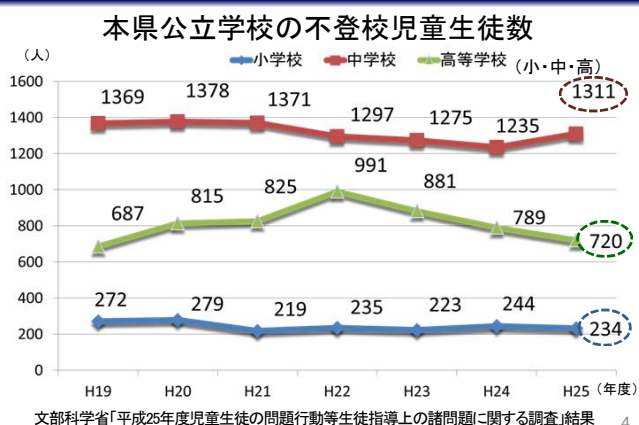
IV まとめ

2

I 研究主題と基本的な考え方

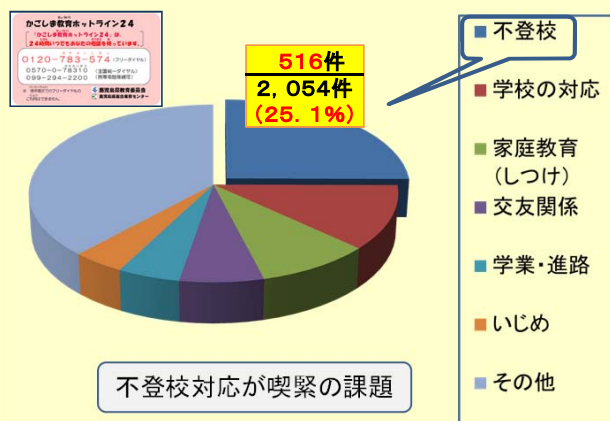
3

本県公立学校の不登校児童生徒数



4

「かごしま教育ホットライン24」の相談件数(H25)



5

不登校への対応

未然防止

初期対応

自立支援

「魅力ある学校づくり」

休み始め
早期発見
早期対応

30日以上の欠席

事後の対応・ケア

「学校楽しいーと」等による
児童生徒理解

6

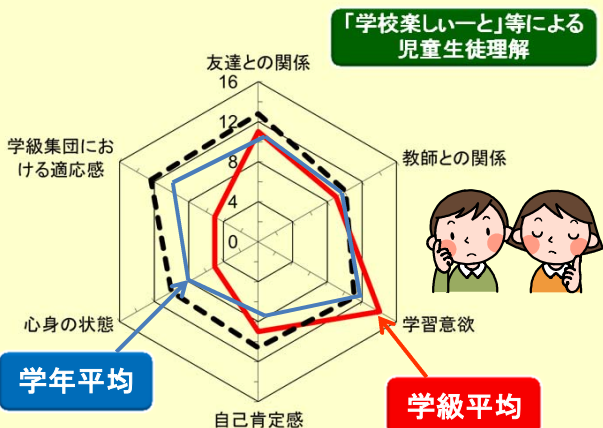
「学校楽しいと」の活用

◆ 児童生徒の学校適応感を測る質問紙 ＜妥当性・信頼性を検証して作成＞



「学校楽しいと」の質問紙

6 観点			
1 学校には、気軽に話せる友達がいる。 たくさんいる 4 ———— 3 2 ———— 1 全くいない	友達との関係		
2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。 たくさんいる 4 ———— 3 2 ———— 1 全くいない	教師との関係		
3 学校の中に入ると、明るく楽しい気持ちになる。 とてもそう思う 4 ———— 3 2 ———— 1 全くそう思わない	学級集団における適応感		
4 委員会活動や係（当番）活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。 とてもそう思う 4 ———— 3 2 ———— 1 全くそう思わない	自己肯定感		
5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。 よくある 4 ———— 3 2 ———— 1 全くない	学習意欲		
6 落ち込むことがある。 よくある 4 ———— 3 2 ———— 1 全くない	心身の状態		



不登校への対応

未然防止

初期対応

自立支援

魅力ある学校づくり



休み始め 早期発見 早期対応

30日以上の欠席

事後の対応・ケア

実態調査の分析
(児童生徒、教職員)

研究協力員の実践及び
相談課対応事例

不登校の未然防止や
初期対応のモデル

長期不登校児童生徒
への対応モデル事例

Ⅱ 実態調査から見られる傾向

実態調査

調査実施期間 平成25年8月～10月

校 種

回答教員数(人)

小学校

694

中学校

346

高 校

269

合 計

1,309 人

1割

校 種

回答児童生徒数(人)

小学校

3,089

中学校

2,656

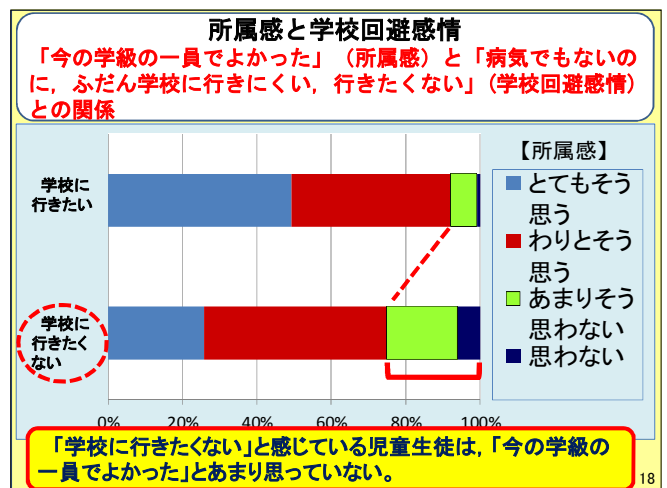
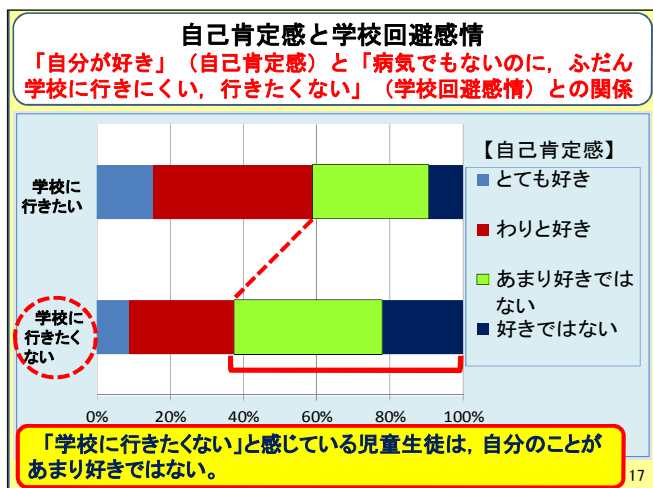
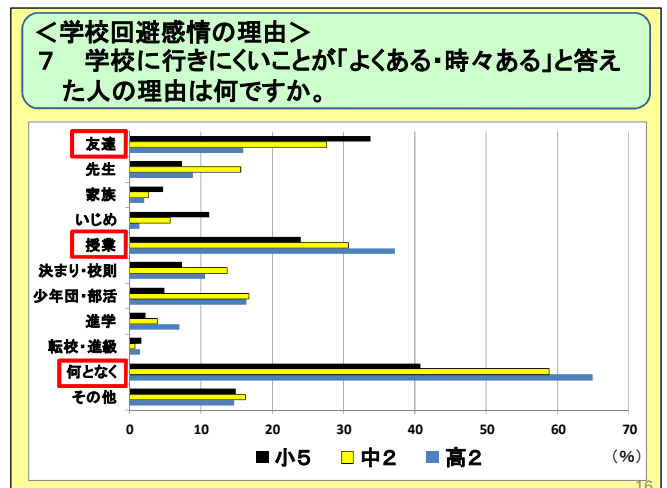
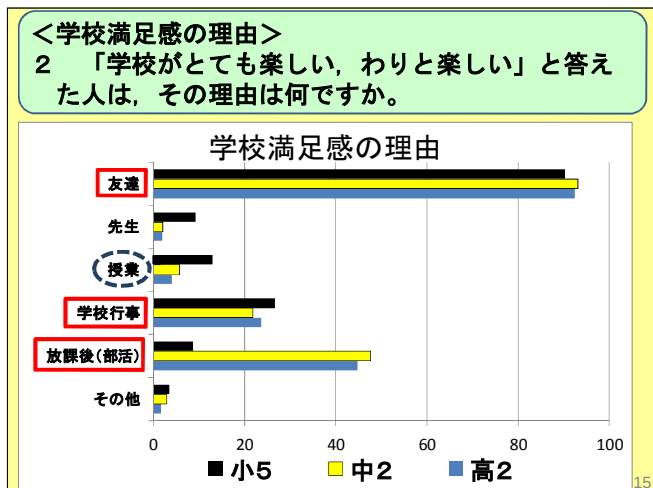
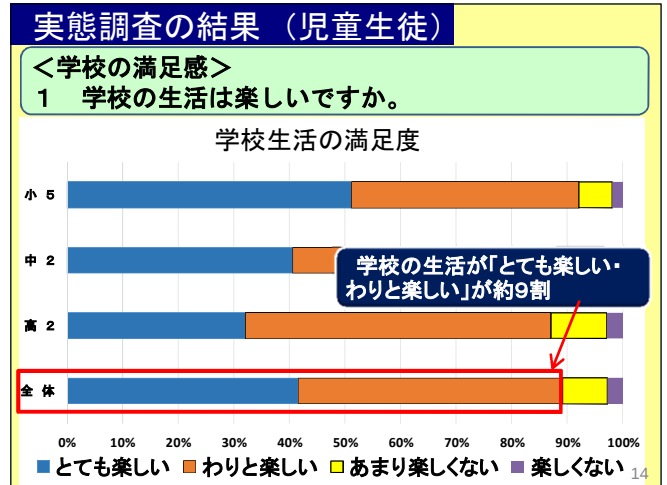
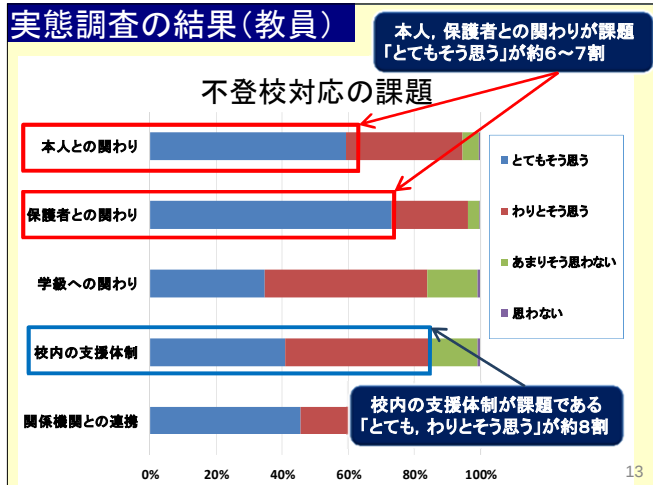
高 校

2,842

合 計

8,587 人

2割



現状の分析と課題

教員は、不登校の課題を「本人との関わり」「保護者との関わり」「校内支援体制の在り方」と捉えている。

不登校の未然防止を進めるために、「対人関係の改善」と「学習面の改善」の視点が必要である。

学校回避感情を低めるために、「自己肯定感」を高める働き掛けや「所属感」を高める働き掛けを行っていくことが有効である。

19

Ⅲ 不登校の対応モデル

① 未然防止モデル

20

全ての児童生徒 未然防止「魅力ある学校づくり」

児童生徒理解

自己肯定感と所属感を高める働き掛け

21

こんなことはありませんか？

A君は、中1になって
欠席が多くないですか。

そうですね。
でも、小学校から
不登校という
情報は ないみ
たいですよ。

う～ん。何かあり
そうなんだけど、も
う一度、小学校の
時の欠席を確認し
ましょうか。

あら？小学校の
時には、30日には
なっていないが、
20日は 学校を休
んでいますね…。

22

基礎情報の収集と分類

一次サポート群

全ての児童生徒

二次サポート群

前年度

10日以上
欠席

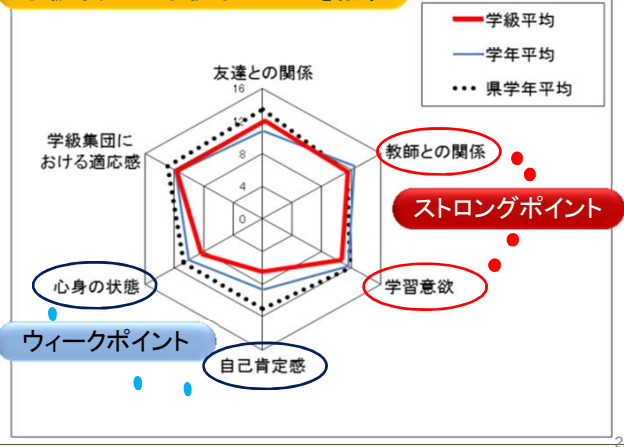
または

別室登校
経験あり

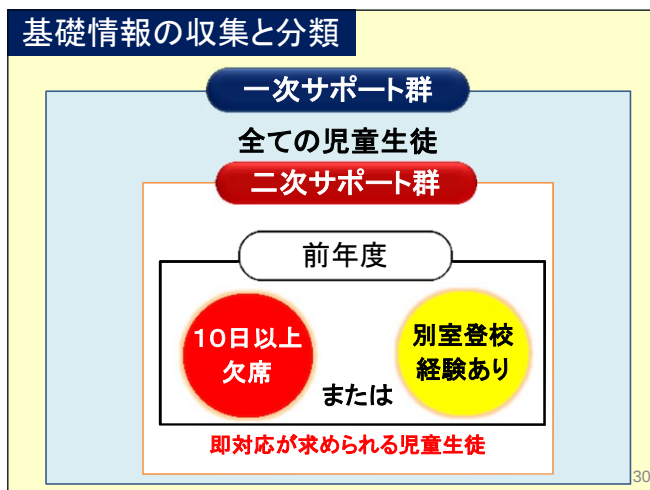
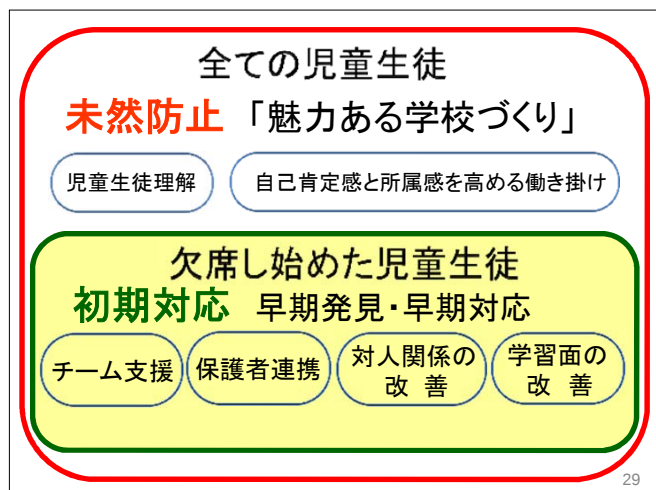
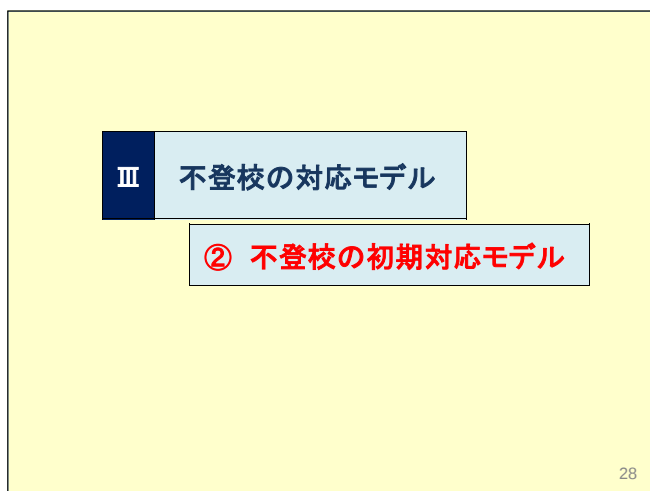
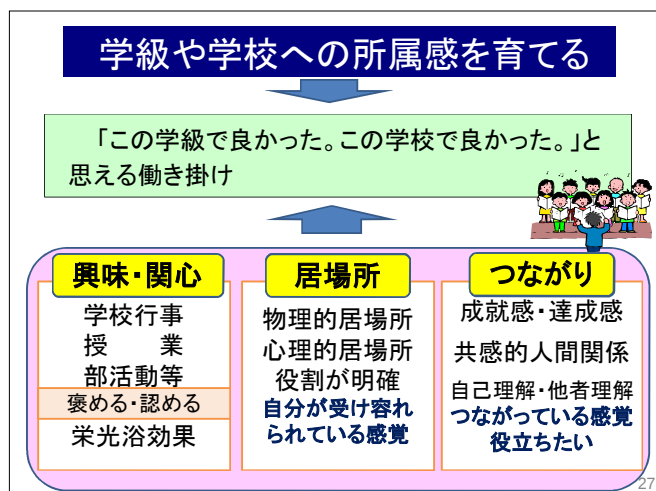
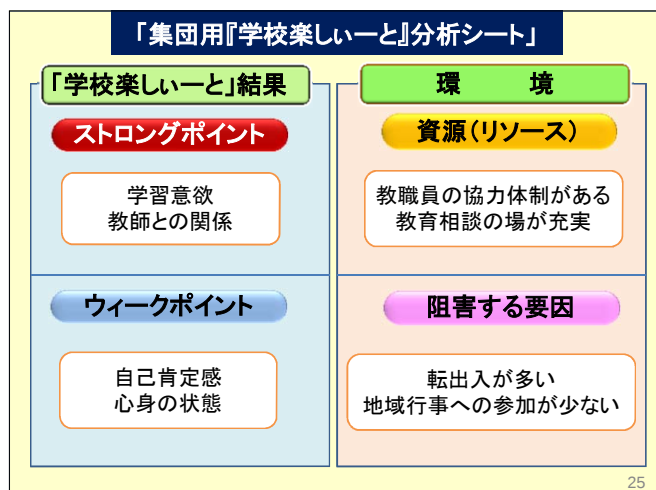
即対応が求められる児童生徒

23

学級集団の「学校楽しい」と結果



24



チーム支援

分類に応じた初期対応

一次サポート群

- 健康観察や学年会での情報交換
- 「学校楽しいーと」等による気付き
- 遅刻、早退、保健室利用等の状況

欠席1日目 → 電話

欠席2日目 → 手紙等

欠席3日目 → 家庭訪問(担任) チーム発足

二次サポート群

欠席1日目 → 家庭訪問(担任)

欠席2日目 → チーム発足 支援検討

欠席3日目 → 家庭訪問(複数) チーム対応開始

31

保護者との連携

「二次サポート群」の保護者との対応

保護者の心理

- 「また学校を休んでしまうのではないか」という強い不安
- 強い叱責、落胆、将来への不安な気持ち、学校との接触を控えるなどの動揺が見られ、心の安定を図りにくい状況

留意点

- 欠席1日目でも、直接会い保護者の不安を軽減する働き掛け
- 「気に掛けてもらっている」「学校も一緒に支えていこうとしている」ことが伝わる働き掛け

32

チーム支援

担任の悩み

A君、もう3日も休んでいるんです。

それは、心配ですね。

学校に来るように強く言った方がよいのか、このまま見守った方がよいのか...

う〜ん。どうしたらいいんでしょう...

33

チームの動き

何を明らかにしていく必要がありますか？

A君の今の状態をどう見ますか。

見立て「アセスメント」

その前に、A君のことをもっと知らなくては...

児童生徒理解

どのような方針で、A君と関わればよいかはつきりとさせなくては...

指導・援助方針

誰が、いつ、どんなことをしていきましょうか。

役割分担

34

チーム支援シート

基本情報

資源

見立て

指導・援助方針

35

チーム支援シート

基本情報

資源

見立て

指導・援助方針

36

チーム支援シートの活用例

インシデント(事例)

中1の男子(A)。仲の良い同級生(B)から、嫌なあだ名で呼ばれるなどのからかいを受けたり、「勝負」と称して肩をたたかれたりしていた。
Aは、最近、学校を3日欠席している。

「学校楽しいーと」

チーム支援シート

氏名	大原 合樹	小中 高 1年 3組	部活等	サッカー部
健康面	対人関係	学習面	自己肯定感	いじめ
落ち込み	話せる友	できた	仕事役立つ	暴力
腹痛	遊べる友	話を聞く	やり遂げる	悪口・無視
頭痛	本音	進んで	自分のよき	いじめ状況
気分不良	助ける友	学習の仕方	他人からの	無し
持病	明るい	学習の理解	発達障害傾	対応中
睡眠	楽しい	◎ ○ △	ない	解決済み
食欲	学級一員	◎ ○ △	あるかも	調査中
緊張具合	居心地	◎ ○ △	診断あり	不明

チーム支援シートの活用例

氏名	大原 合樹	小中 高 1年 3組	部活等	サッカー部
健康面	対人関係	学習面	自己肯定感	いじめ
落ち込み	話せる友	できた	仕事役立つ	暴力
腹痛	遊べる友	話を聞く	やり遂げる	悪口・無視
頭痛	本音	進んで	自分のよき	いじめ状況
気分不良	助ける友	学習の仕方	他人からの	無し
持病	明るい	学習の理解	発達障害傾	対応中
睡眠	楽しい	◎ ○ △	ない	解決済み
食欲	学級一員	◎ ○ △	あるかも	調査中
緊張具合	居心地	◎ ○ △	診断あり	不明

資源

興味関心	長所	出来ている事	対人関係	キーパーソン	他の情報
体を動かすことが好き サッカー選手の話	人に優しく、争いごとは好まない	部活動には参加しその友達とは話ができる	最近まで、B男、C男と行動	母、C男、D男(サッカー部キャテン)	保健室へ「お腹が痛い。」と来室あり

見立て

友人B男からの嫌がらせ(あだ名、肩をたたく)を受けていることを要因とし、気分不良、食欲減退などの症状も出て「学校へ行くことのためらい、不安」があるのではないかと推察。

指導・援助方針

指導・援助方針	誰が	何を	機会
① 不安や苦しい気持ちを共感的に受け止める関わり	担任	事実、Aの心情、願いの確認	Aへの教育相談
② AとBとの関係改善のための関わり(人間関係づくり)	副担任	事実、Bの心情確認、関係改善	Bへの教育相談

IV まとめ

まとめ

成果

○ 不登校の未然防止、初期対応の効果的な取組につながる不登校未然防止モデル及び初期対応モデルを作成することができた。

課題

○ 長期化している不登校対応モデルを作成するために更なる事例収集と分析、検討が必要である。

【平成26年度調査研究発表会】

教育相談課 研究発表

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究

～「学校楽しいーと」等を活用した児童生徒への対応～

鹿児島県総合教育センター